

# 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3770102550		
法人名	株式会社 らく楽		
事業所名	らく楽一宮		
所在地	高松市一宮町 1568番地1		
自己評価作成日	令和1年5月22日	評価結果市町受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	令和元年9月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>利用者が自由に庭に出て自ら野菜の手入れ、花の水やり等が出来る。施設周辺にはのどかな田園風景が広がり季節の移り変わりが感じられる。自宅で過ごしているような家庭的な雰囲気作りを常に心がけている。利用者の体調管理に努め、身体機能の低下を防げるように生活上の機能向上を図っている。</p> <p>月3回以上の行事や外出レクリエーションを行い、利用者の楽しみを増やしている。地域の女性部・学校と交流を図り、地域密着の施設を目指す。</p>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点】

<p>屋内は天井が高く開放感があり、採光もほどよい。行事の際の写真や作品が掲示され、活気を感じる。窓からは稲刈りの様子が見られ、のどかな雰囲気であった。今年に入り地域との交流が促進し、JA女性部の方が食事作りに来たり事業所でカラオケ大会を主催するなどした。また、近隣の小学校や高校との交流もある。外出や趣味活動などでは、入居者の想いや希望を汲み取り、それを実現しようという姿勢がうかがえる。家族との関係づくりにおいても、面会時にはあいさつを徹底するとともに、お茶を出したり、積極的にコミュニケーションを図っている。引き続き、地域交流を進めていきたいという意欲が感じられた。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日、朝の申し送りに時に理念を唱和し、介護の場面で職員1人1人が常に意識できるように努めている	理念を事務所等に掲示するとともに、毎朝唱和し、共有と実践に努めている。今年に入り、地域交流が充実するなど、管理者をはじめ職員一人ひとりが理念を日々の業務で具現化していることがうかがえる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議を通じて認知症の利用者の理解や支援の方法を共有している 地域の方も参加しやすい行事を計画し参加の声かけを行う	JA女性部が食事づくりに来てくれたり、事業所でカラオケ大会を企画し、地域の方に出場してもらうなど、地域交流が活発である。また、近隣の小学校にアプローチし、児童との交流が始まったり、高校のボランティア部からの来訪もある。他方、大正琴や日舞、セラピードッグなど多様なボランティアが来訪している。	今年に入って、地域交流が充実してきている。取り組みを継続することで、地域との関係がさらに深まり、利用者の生活がさらに充実することを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地区の行事に参加させていただき地域の方々とふれあう場を作っている 地域の女性部の方とご飯やおやつ作りを行い、交流の場を設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催し、活動状況報告、意見交換を行っている 議事録を回覧し、職員全体に周知しサービス向上に活かしている	2か月に1回、開催している。JA女性部、民生委員、市介護保険課、利用者等が出席している。会議では、事業所の状況を報告し、意見交換を行っている。議事録を回覧することで、会議内容の共有とサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で事業所の実情やサービスの取り組みを伝えている 参加担当者から適切なアドバイスを頂いている	運営推進会議に市の介護保険課の職員が出席しており、その際に事業所の実情を把握してもらっている。運営について、法人本部の職員が市に相談することもある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月に1回の研修を行っている 年間研修の中で議題として取り上げ、各自にレポート提出してもらい、意識付けと拘束をしないケアができるよう取り組んでいる	入社時及び年に2回、身体拘束に関する研修会を行っている。また、3か月に1回、委員会を開催し、身体拘束に関する勉強会を兼ねるとともに、いかに拘束をせずにケアをしていくか話し合っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所の年間研修として定期的に議題にし、身近な問題として職員同士が常に意識し合えるように努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者と職員は地域福祉権利擁護事業、成年後見制度の理解に努めたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、改定時には文章で示し、家族様宛てに書類送付、また個別に説明を行っている。問い合わせに対しても丁寧な説明をし理解を得ている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・不満・苦情について利用者や家族が話しやすい雰囲気作りを心がけている また、職員同士で話し合い希望に添えるよう早期に検討し実行している	家族の面会時にはあいさつを徹底するとともに、お茶を出したり、積極的にコミュニケーションを取るなど、関係づくりに努めている。 また、運営推進会議には、利用者本人が参加するなど、意見、要望を外部者へ表せる機会がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	現場の職員の意見を十分に聞き職員の声に耳を傾ける機会を設けている 職員会のあと雑談タイムを設け話しやすい雰囲気作りを努めている	職員会議やユニット会議などで意見を聞いている。また、「気づきノート」を作成し、日々のケアの中で感じたことや提案等を職員間でシェアしている。職員から法人本部に意見などを投書できる「目安箱」が設置されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己申告、年度目標を記入してもらい、職員が個々にどのように考えているかを知り、環境整備に生かすようにしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設外研修を受講し、ホーム内においても研修内容を出来るだけ多くの職員に対して周知する機会を作り実践できるよう工夫している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ内のGHと利用者、職員共に相互訪問を行い、交流を図るように努めたい		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に面談をし、利用者の話をよく聞く事を大切にしている 入所前の情報を職員間で共有するようにしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に本人、家族等の話をしっかりと聞き、受け止めながら信頼関係を早期に築けるように努めている 1人1人の思いや暮らし方、生活環境、1日の過ごし方の希望や意向の把握に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要に応じて他のサービス利用の調整を行うなど、出来る事は速やかに実行している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	施設の流れだけでなく個々に生活の習慣を取り入れながら本人から学んだり支えあう関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の関係を大切に、共に支援できる環境づくりに努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や友人の面会や手紙・電話等で連絡をしている	定期的に自宅に帰ったり、家族とともに外食に出かけたりしている方がいる。知人に電話をかけてもらったり、隣接する有料老人ホームとの交流もあり、馴染みの関係が継続するよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者がお互い出来ることをして、助け合って生活をしている また、他の区画の利用者との交流が持て、孤立しないよう努めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所者の家族から相談を受けることもあり、家族の思いを大切にしながら支援している		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者や家族に意見を聞き相談しながら検討している	午後から作業をしながら、利用者とはゆっくり話す時間を取り、思いや希望を汲み取るようにしている。ハンバーガー店に行ったり、麻雀がしたい利用者のために相手をしてくれるボランティアを探すなど、利用者の希望を実現しようという姿勢がうかがえる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートを見直し利用者のそれまでの情報をもとにそれまでの暮らしを把握している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者が出来ることを見つけ、一緒に行ったり、見守り声かけをしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族と話し合ったり介護者による意見やアイデアの交換の機会を設けて作成している	3か月に1回、モニタリングを行い、半年ごとに計画を見直している。計画作成の際には職員や家族の希望を聞いている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の状態を記録している ケアプランは状態変化に応じた随時の見直しを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常に本人や家族からの意見、要望を取り入れて、職員間で話し合い、本人にとって最適な支援の方法を考えている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に民生員の参加がある 消防・警察に協力を求めている 防災については、年2回防災・避難訓練を行っている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設の主治医、又はかかりつけ医と連携を取りながら医療を受けられるよう支援している	法人が運営する医院に加え、精神科の医師なども往診に来ている。夜間や休日も電話で対応してもらえ、安心感がある。また、眼科や歯科往診もある。その他の専門科については、家族や必要に応じて職員が受診の支援をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	主に日中、看護職員が日常の健康管理や医療活用の支援をしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者、本人、家族と話し合い、必要な支援を行っている 退院時には注意点など丁寧な聞き取りを行うようにしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族等に医療体制を説明し、同時に終末医療についても話し合っている 利用者の状態について主治医と連絡を常にとっている	入居時に、終末期や重度化について事業所での対応方針について説明している。また、状態の変化に応じて、主治医及び家族と話し合い、方針を共有している。看取りには至っていない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員は、利用者の急変や事故発生時に備えて、応急手当や初期対応の研修を行い実践に生かせる様にしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行い、地域の消防団の方と連携を取り協力体制を築いている 地域の方にも協力を要請し見守りなどをお願いす機会を設けたい	年に2回、夜間及び昼間を想定して訓練を実施している。訓練の際には、消防署の職員や隣人も参加することがある。また、地域の防災訓練にも参加するなど、地域との協力関係づくりに努めている。備蓄も3～4日分を備えている。	2階に車いすの利用者がいることを踏まえ、火災時の避難方法について、繰り返し検証されたい。また、地震についても勉強会や訓練を通して、職員の意識の向上を期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応について職員会の時にプライバシーについて職員と勉強を行いレポート提出を行っている	トイレ誘導など、自尊心を傷つけないよう声かけに気をつけている。プライバシーや接遇等について職員研修を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	積極的にコミュニケーションを図り日頃からどんな思いでいるかを職員が常に意識している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のその日の身体、精神状態に合わせ支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやおしゃれができるように好みを聞くなどして対応している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の状態に合わせて一緒に食事の準備や片付けを行っている	普段は給食業者から配送されたものを事業所で盛り付けて提供している。味付けや献立の希望などを業者に伝えるなど、利用者に美味しいものを提供できるよう努めている。毎週日曜の昼食は、利用者の希望を踏まえて手作りしており、皮むきや野菜のカットなどを手伝ってもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調に合わせて、摂取量が少しでも維持できるように食事形態、食事のリズムにも工夫している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事の前に手洗いうがいを行い、食後の口腔ケア介助を行っている ほとんどの利用者が歯科の往診、衛生士による口腔ケアを行い清潔な状態を維持している		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的な誘導や本人の行動を見ながらトイレ誘導を行っている 失禁状態や尿量に合わせたオムツを使用するようにしている	排泄チェック表を作成し、一人ひとりの排泄パターンや本人の様子を観察して、声かけ・誘導を行っている。外部講師を招いて、おむつの当て方の研修などもしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	好みの飲みものや主食を粥などに変え水分を取れるように工夫している 排便管理を行い、看護師と連携を図り便秘薬の調整を行い早期の対応に取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の状態や希望に応じ時間や曜日の変更を行っている 入浴に興味や様子がわく様な声かけを行ったり相性が合う職員が誘うなどしている	週2回以上入浴できるよう支援している。概ね入浴の曜日や時間帯は決めているが、その日の体調や気分に応じて、柔軟に対応している。ゆず湯や入浴剤を使用するなど、入浴を楽しめるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	明るさや室温管理、好みの寝具の調整を行い質のよい眠りがとれる様に支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬を理解、管理し、その都度状態を主治医に相談している 本人が飲みやすい形態も見極めるように努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常、好きな本を読んだり新聞やテレビを見て過ごしたり散歩に出かけたり、花見、外食などを行い気分転換を図っている 本人ができる役割が続けられるように支援している		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	戸外に出かける機会が増えるように家族と相談し、家族の参加も願っている	天気のいい季節には隣接する有料老人ホームまで散歩している。月に1回、買い物に行ったり、うどん店などに外食に行くこともある。また、季節の花を見に、亀鶴公園や仏生山公園、公淵公園など、様々なところに出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談を行いながら支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	GHの電話を使用している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	景色がいつでも眺められるように作られており、車椅子の方でも通りやすいよう障害物の配置にも気を配っている	天井が高く、開放感がある。採光もほどよい。行事の際の写真や作品が掲示され、活気を感じる。各ユニットにはソファーが置かれ、入居者が思い思いにくつろいでいた。窓からは稲刈りの様子が見られ、のどかな雰囲気を感じられた。家庭的な空間づくりができています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内にソファーを設けたり音楽鑑賞できるよう設備したり、外の景色が見れるよう椅子を置いている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真を貼ったり、使い慣れた家具やテレビ等、好みのものを持ち込んでもらうことで、本人が居心地よく過ごせる工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の身体状況や精神状態に合わせた安全な環境作りに努めている		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価結果

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、申し送り時に理念を唱和し、実践に向けて取り組んでいる
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	一宮町農協女性部の方々と交流を持ち利用者と共に食事作りをしたり、町内の高齢者を対象にカラオケ大会を企画するなどして地域の繋がりを深めている。また、ボランティアの慰問が月1回はあり幼稚園児の訪問もある
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地区の行事に参加させて頂き、地域の方々と触れ合う場を作っている
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催し、活動状況報告、意見交換を行っている。ご利用者の参加もあり意見を頂くように努めているが家族様の参加が乏しく苦慮している 議事録を回覧し、職員全体に周知しサービス向上に活かしている
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議での情報交換、必要時の書類提出の報告を行い協力や助言を得ている
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的拘束等の適正化のための指針に基づき委員会は3ヶ月に1度開催している また、定期研修入社時の研修も行い各ユニットの現状報告、事例検討を行い拘束しないケアに努めている
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に会議を開催し虐待について学ぶ機会を作り防止に努めている

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加した職員から権利擁護について学ぶ機会がある また、利用者の家族様より相談も増え後見人制度の必要性を感じている
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、改定時には文章で示し、家族様あてに書類を送付、また必要時には個別で説明を行っている
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し利用者や家族が話しやすい雰囲気作りを心がけている 外出や外食の機会を増やして欲しいという個別要望については機会を増やせるように努めている
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	2ヶ月に1回の職員会議やユニット会議、気づきノートの記入、自己評価などの意見を述べる機会がある 議題については職員間で検討し改善策を共有している
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人で定めている就業規則の基に努力や実績、勤務状況を把握し、個別に相談を受け職場環境、条件の整備に努めている
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設外研修を受講し外部で取り入れたことはホーム内においても研修会を行っている
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の研修や総会に出席し同業者と交流する機会がある

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に面談をし、利用者の話をよく聞く事を大切にしている また本人に携わる関係者や家族にも協力を得ている。入所前の情報は職員間で共有している
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に本人、家族等の話をしっかりと聞き受け止めながら関係を築くことに努めている
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要に応じて他のサービス利用の調整を行うなど、出来る事は速やかに実行している
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は家庭的な雰囲気第一として、施設の流れだけでなく個々に生活の習慣を取り入れながら本人から学んだり支えあう関係を築いている
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には気軽にお茶などを飲みながら会話が楽しめる雰囲気の中で以前の暮らしぶりや家族の要望を聞いている
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会者に笑顔で挨拶をし落ち着いて過ごせる環境づくりを行い面会の継続を依頼している。同敷地内有料老人ホームの職員とも交流がある。2ヶ月に1回お便りを家族に送ったり玄関先には月間行事参加の写真を掲載し利用者を身近に感じて頂ける工夫をしている
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士で会話を楽しんだり、困りごとがあると手を差し伸べる関係性がある また、他の区画の利用者とも交流が持て、孤立しないように努めている

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所者の家族より衣服や備品の寄付を頂く機会もある また、個別レクの夕食先を退所者家族の勤務先にしこれまでの関係性が継続できるように努めている
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者や家族に意見を聞き相談しながら検討している フェイスシートからの情報を基本にしている
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートを見直し情報を元にそれまでの暮らし方や趣味、特技を本人、家族より聞き取りしている
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの現状等を様子観察し、出来る事を見つけ、一緒に行ったり、見守り、声かけをしている 看護師からの助言も受け、職員間で話し合う機会を持ちながら現状把握に努めている
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期以外に体調変化時などに変更を行っている本人にも要望を聞き家族には電話や面会時に尋ねている 計画作成者を中心に職員、主治医などの意見を参考に作成している
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の状態を個人日誌に記録している また、気づきノートへ記入し現状に即したケアの情報を共有している
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常に本人や家族からの意見や要望を取り入れて、職員間で話し合い、最適な支援ができるように取り組んでいる

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に民生員の参加がある 暮らしの安全安心には警察、消防、地域の方に協力を求めている
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望する医療機関に職員や家族が同行して受診している 歯科医師、衛生士、の往診もあり体調管理を行っている
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日中・夜間と看護職員が日常の健康管理や医療活用の支援をしている 訪問看護師との医療連携もある
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居前に利用していた医療機関とも連携を図っている 病院関係者・本人・家族と話し合い、必要な支援を行っている
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族等に医療体制を説明し、同時に終末医療についても話し合っている 利用者の状態について主治医と連絡を常にとっている
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員は、利用者の急変や事故発生時に備えて、応急手当や初期対応の訓練を行っている 同敷地内の有料老人ホームにはAEDを設置し操作方法の研修もある
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行い(内1回は夜間想定)、地域の消防団の方と連携を取り協力体制を築いている 防災用の備蓄品もストックし井戸水の設備もある

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣い・人格・プライバシーは接し方や場所を気をつけて行っている 研修の中にも含まれておりレポート提出もある
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の有する能力を理解しモップがけや台拭きなど意欲的に行えるように心がけている 生活上の会話から希望を確認している
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	より楽しんで頂けるようにレクリエーションや行事等、利用者の意見を尊重して企画している また職員が利用者と日常的な会話の時間をとれるようにしている
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望を聞きながら支援している 散髪を希望しない利用者には無理強いせず時期をずらすなどの工夫をしている
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の食べたいものを優先にご飯作りのメニュー選びに取り入れている。出来る事を見つけ参加してもらっている パン教室を定期的に関催し喜んで頂いている
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調に合わせて摂取量が維持できる様に食事形態食事のリズム、持ちやすい食器などを工夫し支援している またお茶を苦手とする利用者には家族の同意を得てイオン飲料などを個別に提供している アレルギーにも注意しメニュー変更等の依頼もしている
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ほとんどの利用者が歯科医、衛生士の往診を受け口腔内の把握や清潔保持が出来る また、利用者個人の歯の具合等に即した洗浄ブラシを使用するようにしている



自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1日の排泄の流れを把握し、定時に声掛け・トイレ誘導を行っている 利用者の尿量に合わせたオムツを検討している またオムツの充てかた研修で勉強する機会もあり個々に合った工夫を行っている
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	好みの飲み物や主食を粥に変更するなどし水分摂取がしやすい工夫をしている 排便管理を行い主治医に相談しながら便秘薬の調整をし早期の対応に取り組んでいる
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の状態や希望に応じ時間や曜日を変更している 利用者の身体状況に合わせ座浴での入浴も実施している 季節に合わせてゆず湯や入浴剤の活用もある。個浴を楽しめるように時々の声かけだけを行い一人の時間を楽しめる工夫もしている
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の明るさや室温管理、好みの寝具の調整を行っている 天気の良いときには布団を干したり布団乾燥機を使用し居室内の通気を確保し気持ちの良い空間作りに努めている
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳の管理、処方内容など職員が各自理解に努めている 看護師とも連携を図り追加処方や残薬の管理など職員が共有できるように努めている
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常、好きな本を読んだり新聞やテレビを見て過ごしたり散歩に出かけたり、花見、外食などを行い気分転換を図っている 本人ができる役割が続けられるように支援している
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	数人でマクナルドへ外食するなど普段では行きにくい場所にも出かけられるように工夫している

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族と相談を行い支援している
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて電話をかけられるようにしている
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	混乱がないように自席やトイレの場所は分かり易い様に目印をつけており、複数の利用者とのレクリエーションで季節感を彩る工作物を作り居間に飾っている 皆で植えた花の鉢を置くなどし季節感や癒し空間を作るように努めている
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	複数の利用者が会話できるようテレビ・ソファを設け過ごし易い空間作りを行っている
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で使い慣れていた物や他の利用者に影響がないように家族と利用者で相談して持って来て頂いている
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホールでは常に車椅子が通れるよう通路を配備している 混乱や事故防止の為に家具類はむやみに場所を変えずできるだけ固定化し安全面に配慮している

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価結果

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日、朝の申し送りに時に理念を唱和し、各自意識付けしている
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	一宮町農協女性部の方々と交流を持ち利用者と共に食事作りをしたり、町内の高齢者を対象にカラオケ大会を企画するなどして地域の繋がりを深めている。また、ボランティアの慰問が月1回はあり幼稚園児の訪問もある
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地区の行事に参加させて頂き地域の方々とふれあう場を作っている
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催し、活動状況報告、意見交換を行っている。ご利用者の参加もあり意見を頂くように努めているが家族様の参加が乏しく苦慮している 議事録を回覧し、職員全体に周知しサービス向上に活かしている
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議での情報交換、必要時の書類提出の報告を行い協力や助言を得ている
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的拘束等の適正化のための指針に基づき委員会は3ヶ月に1度開催している また、定期研修入社時の研修も行い各ユニットの現状報告、事例検討を行い拘束しないケアに努めている
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に会議を開催し虐待について学ぶ機会を作り防止に努めている

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加した職員から権利擁護について学ぶ機会がある また、利用者の家族様より相談も増え後見人制度の必要性を感じている
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、改定時には文章で示し、家族様あてに書類を送付、また必要時には個別で説明を行っている
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し利用者や家族が話しやすい雰囲気作りを心がけている 外出や外食の機会を増やして欲しいという個別要望については機会を増やせるように努めている
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	2ヶ月に1回の職員会議やユニット会議、気づきノートの記入、自己評価などの意見を述べる機会がある 議題については職員間で検討し改善策を共有している
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人で定めている就業規則の基に努力や実績、勤務状況を把握し、個別に相談を受け職場環境、条件の整備に努めている
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設外研修を受講し外部で取り入れたことはホーム内においても研修会を行っている
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の研修や総会に出席し同業者と交流する機会がある

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に面談をし、利用者の話をよく聞く事を大切にしている また本人に携わる関係者や家族にも協力を得ている。入所前の情報は職員間で共有している
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に本人、家族等の話をしっかりと聞き受け止めながら関係を築くことに努めている
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要に応じて他のサービス利用の調整を行うなど、出来る事は速やかに実行している
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は家庭的な雰囲気第一として、施設の流れだけでなく個々に生活の習慣を取り入れながら本人から学んだり支えあう関係を築いている
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には気軽にお茶などを飲みながら会話が楽しめる雰囲気の中で以前の暮らしぶりや家族の要望を聞いている
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会者に笑顔で挨拶をし落ち着いて過ごせる環境づくりを行い面会の継続を依頼している。同敷地内有料老人ホームの職員とも交流がある。2ヶ月に1回お便りを家族に送ったり玄関先には月間行事参加の写真を掲載し利用者を身近に感じて頂ける工夫をしている
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	幼稚園の先生をされていた利用者の伴奏で歌を歌うなど皆で楽しめるように努めている利用者同士で会話を楽しんだり、困りごとがあると手を差し伸べる関係性がある

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所者の家族より衣服や備品の寄付を頂く機会もある また、個別レクの夕食先を退所者家族の勤務先にしこれまでの関係性が継続できるように努めている
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者や家族に意見を聞き相談しながら検討している フェイスシートからの情報を基本にしている
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートを見直し情報を元にそれまでの暮らし方や趣味、特技を本人、家族より聞き取りしている
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	看護師からの助言も受け、職員間で話し合う機会を持ちながら現状把握に努めている
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期以外に体調変化時などに変更を行っている本人にも要望を聞き家族には電話や面会時に尋ねている 計画作成者を中心に職員、主治医などの意見を参考に作成している
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の状態を個人日誌に記録している また、気づきノートへ記入し現状に即したケアの情報を共有している
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常に本人や家族からの意見や要望を取り入れて、職員間で話し合い、最適な支援ができるように取り組んでいる

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に民生員の参加がある 暮らしの安全安心には警察、消防、地域の方に協力を求めている
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望する医療機関に職員や家族が同行して受診している 歯科医師、衛生士、の往診もあり体調管理を行っている
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日中・夜間と看護職員が日常の健康管理や医療活用の支援をしている 訪問看護師との医療連携もある
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居前に利用していた医療機関とも連携を図っている 病院関係者・本人・家族と話し合い、必要な支援を行っている
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族等に医療体制を説明し、同時に終末医療についても話し合っている 利用者の状態について主治医と連絡を常にとっている
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員は、利用者の急変や事故発生時に備えて、応急手当や初期対応の訓練を行っている 同敷地内の有料老人ホームにはAEDを設置し操作方法の研修もある
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行い(内1回は夜間想定)、地域の消防団の方と連携を取り協力体制を築いている 防災用の備蓄品もストックし井戸水の設備もある



自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣い・人格・プライバシーは接し方や場所を気をつけて行っている 研修の中にも含まれておりレポート提出もある
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の有する能力を理解しモップがけや台拭きなど意欲的に行えるように心がけている 生活上の会話から希望を確認している
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	より楽しんで頂けるようにレクリエーションや行事等、利用者の意見を尊重して企画している また職員が利用者と日常的な会話の時間をとれるようにしている
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望を聞きながら支援している 散髪を希望しない利用者には無理強いせず時期をずらすなどの工夫をしている
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の食べたいものを優先にご飯作りのメニュー選びに取り入れている。出来る事をみつけ参加してもらっている パン教室を定期的開催し喜んで頂いている
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調に合わせて摂取量が維持できる様に食事形態食事のリズム、持ちやすい食器などを工夫し支援している またお茶を苦手とする利用者には家族の同意を得てイオン飲料などを個別に提供している アレルギーにも注意しメニュー変更等の依頼もしている
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ほとんどの利用者が歯科医、衛生士の往診を受け口腔内の把握や清潔保持が出来ている また、利用者個人の歯の具合等に即した洗浄ブラシを使用するようにしている

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1日の排泄の流れを把握し、定時に声掛け・トイレ誘導を行っている 利用者の尿量に合わせたオムツを検討している またオムツの充てかた研修で勉強する機会もあり個々に合った工夫を行っている
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	好みの飲み物や主食を粥に変更するなどし水分摂取がしやすい工夫をしている 排便管理を行い主治医に相談をしながら便秘薬の調整をし早期の対応に取り組んでいる 個別にヨーグルトや乳飲料
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の状態や希望に応じ時間や曜日を変更している 利用者の身体状況に合わせ座浴での入浴も実施している 季節に合わせてゆず湯や入浴剤の活用もある。個浴を楽しめるように時々の声かけだけを行い一人の時間を楽しめる工夫もしている
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の明るさや室温管理、好みの寝具の調整を行っている 天気の良いときには布団を干し、居室内の通気を確保し気持ちの良い空間作りに努めている
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳の管理、処方内容など職員が各自理解に努めている 看護師とも連携を図り追加処方や残薬の管理など職員が共有できるように努めている
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本や新聞が身近にあり好きなきに手に取れるようにしている また、コーヒーを好まれる利用者には自分で作ることが出来る環境を整えている日々の中で楽しみごとや気分転換できる様に努めている
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別に買い物に行ったり、数人でマクドナルドへ外食するなど普段では行きにくい場所にも出かけられるように工夫している

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持を希望する利用者には家族と相談後ご自身で管理できる様に支援している
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて電話をかけられるようにしている
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	混乱がないように自席やトイレの場所は分かり易い様に目印をつけており、複数の利用者とのレクリエーションで季節感を彩る工作物を作り居間に飾っている 水槽に金魚を飼ったり皆で植えた花の鉢を置くなどし季節感や癒し空間を作るように努めている
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	複数の利用者が会話できるようテレビ・ソファを設け過ごし易い空間作りを行っている
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で使い慣れていた物や他の利用者に影響がないように家族と利用者で相談して持って来て頂いている
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホールでは常に車椅子が通れるよう通路を配備している 混乱や事故防止の為に家具類はむやみに場所を変えずできるだけ固定化し安全面に配慮している